

発信力を向上させるための授業モデルづくり

— 中学校英語における反転授業教材の開発と実践を通して —

学籍番号 179962

氏名 李 静香

主指導教員 福永 光伸

1. 研究の目的と概要

本実践研究の目的は、(1)反転授業の有用性を検証し、生徒の発信力を向上させるための中学校英語における反転授業モデルを提示すること。(2)授業モデルを活用した授業を学習者や指導者がどのように受け止めるか、また反転授業が報告者のコーディネーションによって学校現場でどのように運用されていくかを明らかにし、中学校における反転授業の実践事例を示すことの2点である。これらの目的に向けて、3つの実践研究をA中学校とB中学校の2校で実施した。実践研究Ⅰでは、A中学校において報告者は、指導者として反転授業の効果検証を行った。その結果から、「中学校における発信力を向上させるための反転授業モデル」を作成した。実践研究Ⅱでは、授業モデルを活用し、報告者がコーディネーションを行いながら、A中学校の英語科教員が反転授業を実施するなど、学校現場での運用を進めた。生徒質問紙と指導者インタビューの結果と課題から、実践研究Ⅲでは、報告者が現在所属するB中学校において、授業モデルの検討と改善を行った。図1に本実践研究の流れを示す。

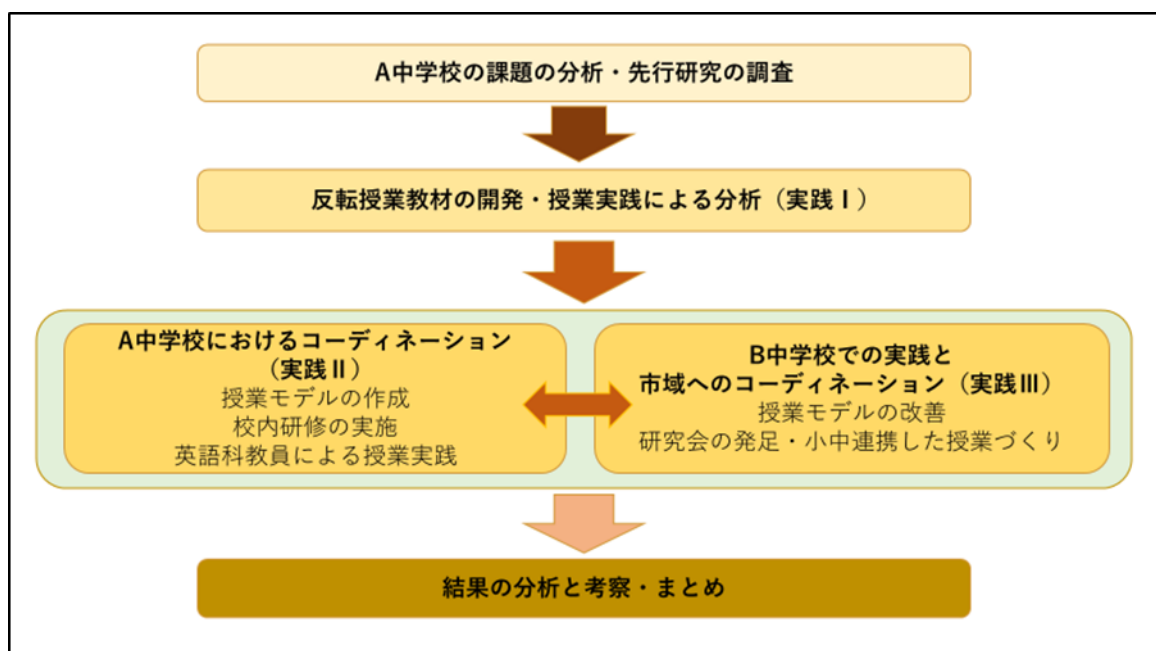


図1 本実践研究の流れ

2. 実践研究の概要

実践研究Ⅰでは、報告者が反転授業の実践を行った結果、事後の学力テストにおいて「書くこと」「話すこと」において効果が見られた。この結果の考察から、「中学校英語科における発信力向上のための反転授業モデル」を作成した。授業モデルは、「家庭での繰り返し学習」「技能統合型の授業実践による活用」「スモールステップでのチェック機能」の3要素を有し、これらは相互に関連をもつものであると示された。実践研究Ⅱでは、授業モデルを活用し、報告者がA中学校内での実施のためのコーディネーションを行い、英語科教員が反転授業を実施した。生徒質問紙と指導者インタビューの結果から、(1) 動画における語彙練習パートの改善、(2) 生徒が自律して学習に取り組むための指導の2点の課題が考察された。実践研究Ⅲでは、報告者が所属するB中学校において、2点の課題の検討を行い、授業モデルの改善を行った。また、B中学校では、授業モデルのさらなる普及に向けて、研究会の発足と小中連携ミーティングを行った。図2は改善された反転授業モデルである。

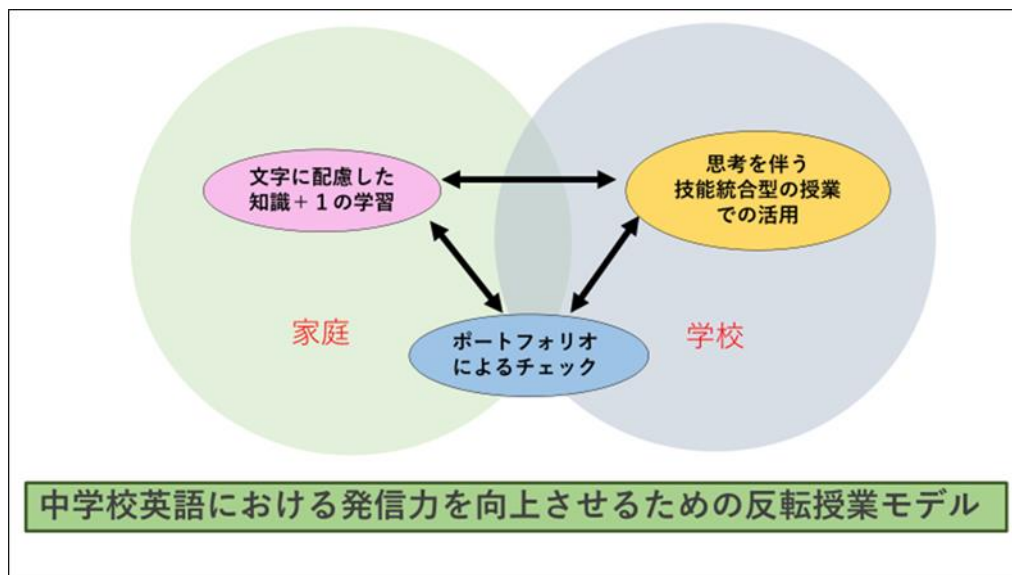


図2 改善された反転授業モデル

3. 今後の展望

授業モデルを活用し、さらなる改善にむけて「学びの多様性への対応」、「評価手法の開発」、 「他教科との連携」に今後取り組んでいきたい。反転授業教材は、家庭で生徒が自分の好きな教材を選んで個人のペースで学習することが可能であることは明らかである。本研究で用いられた教材を基本に、今後は、生徒の学びの多様性に応じた数種類の教材の開発をめざしたい。また、「発信力」を図るためのテストの開発と、「学習の記録」のポートフォリオに対する評価手法の開発についても考えていく必要がある。そして、他教科と連携して取り組んでいくことで、授業モデルのさらなる改善や授業の改善を図りたい。反転授業の運用については、学校全体で取り組む必要があるため、円滑な運用の在り方についても、さらに検討する必要がある。